

おきなわ がんサポートハンドブックについて

● 本日の内容:

1. 【患者必携】「地域の療養情報」沖縄県版
「おきなわ がんサポート ハンドブック」の紹介
2. 発行の経緯
3. 概要
4. 内容
5. 配布先
6. 現状と課題

地域がん診療連携拠点病院
那覇市立病院 がん相談支援センター
樋口 美智子

【患者必携】「地域の療養情報」沖縄県版 「おきなわ がんサポート ハンドブック」 ～支え合う大切なあなたと家族のために～



発行の経緯

●「患者必携」は、「がん対策推進基本計画」(2007年6月)に基づいて、療養生活での不安や悩みへの対応やがん医療のことなど、がん患者・家族の方に活用していただきたい情報を、がん患者・家族・医療従事者が患者・家族の視点で取りまとめたものです。

『患者必携』は、3部作です。

- ①「がんになったら手にとるガイド」普及新版2013年9月発行)：
(一般書店にて販売・ウェブページで読むことも可能)
- ②「別冊 わたしの療養手帳」(上記①に付属して販売)
- ③地域の療養情報



厚生労働科学研究費補助金第3次対がん総合戦略研究事業
「患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究」
2010(平成22)年1月
発行:琉球大学医学部附属病院がんセンター

【患者必携】地域の療養情報 「おきなわ がんサポート ハンドブック」 概要

1. 目的:

がん患者とその家族に地域で療養生活を送るために必要な情報を提供する事により、より質の高い生活を送ることができる環境を整備する。

2. 配布対象者: 全てのがん患者(治癒した方は除く)とその家族

- * 既刊をお持ちの方にも配布する
- * 一般の方には原則として配布しない
- * 18~70歳のがん患者を主な読者と想定して編集

3. 規格: A5フルカラー, 96ページ(2016年版), 2万部

4. 編著: 沖縄県、沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会 琉球大学医学部附属病院がんセンター

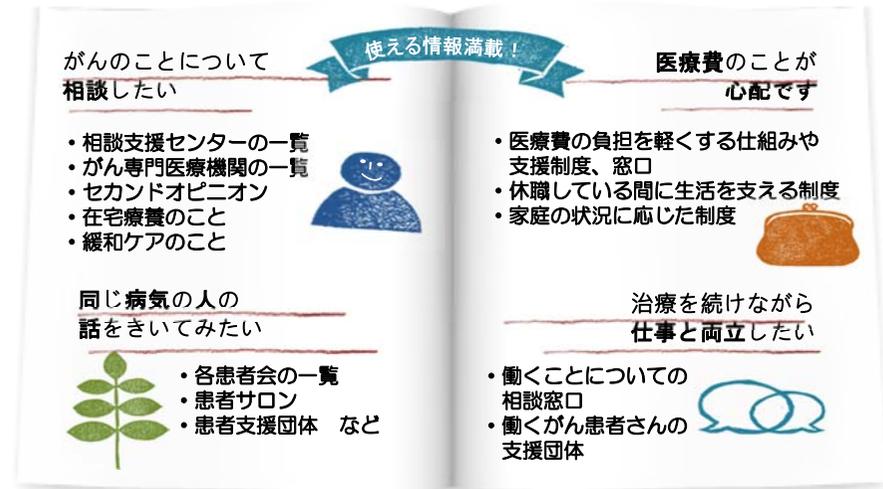
5. 予算: 沖縄県がん患者等支援事業の一部に組み込まれた予算

【患者必携】地域の療養情報
「おきなわ がんサポートハンドブック」 内容

●“がん”と診断された患者さんが活用できる相談窓口や、地域の支え合いの場の情報、経済的・社会的な制度などを、がんの治療過程のおおよその流れに沿って、3部構成でまとめています。

- 第1部: 病気や治療について
- 第2部: よりよい療養生活をおくるために
- 第3部: お金のことについて
- 問い合わせ一覧
- 知って得する基礎知識
- 体験談

サポートハンドブックには
どのような内容が載っていますか？



【患者必携】地域の療養情報
「おきなわ がんサポートハンドブック」 配布先

●ハンドブックは、沖縄県から全医療機関とその他の関連団体・施設(患者会・患者支援団体・保健所・市町村役場・図書館・薬局等)へ送付。その後、各施設の担当部署から、がん患者および家族へ配布されています。

那覇市立病院からのお知らせ

がんと診断された間もない患者さんやご家族の思いに寄り添い、支えることの助けとなる情報誌「がんになったら手にとるガイド」と「わたしの療養手帳」が作成されました。これらを活用することで、以前よりも「療養でき、わかりやすく、役に立つ情報」を得ることが可能です。また、これらは一般書店にてセットで880円(税別)で販売されています(一部の書店：ファミリーマートでも購入することができます)。詳細については、同封されている「患者さんのしおり」をご覧ください。

なお、地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック(2016年版)」を作成しましたので、合わせてご活用ください。

同封された冊子についてのご質問は、下記の連絡先へお問い合わせください。

冊子名	対応時間	電話
国立がん研究センター がん相談支援センター	平日(土日祝日を除く) 午前10時～午後3時	0370-02-3410
琉球大学医学部附属病院 がんセンター	平日(土日祝日を除く) 午前10時～午後3時	098-860-1368

※「がん」についての不安や悩み・心配については、がん相談支援センターへご相談ください。

相談先	対応時間	電話
那覇市立病院 がん相談支援センター (1階総合診療部)	平日(土日祝日を除く) 午前 9時～午後 12時 午後 1時～午後 5時	098-864-5111 (内線283)

〒902-8511 那覇市西2丁目31番地1
那覇市立病院 がん相談支援センター
TEL: 098-884-5111 (内線283) FAX: 098-886-5502

サポートハンドブックは
どこに置けば良いですか？

- 診察室の机の上
- 待合い室
- 医療情報コーナー
- 相談室、指導室
- 病室
- ＊ 気軽に手にとってもらえる工夫も！



琉大病院 病棟



琉大病院 がんセンター前



琉大病院 外来ロビー

サポートハンドブックは いつ渡せばよいですか？

- A. 患者さんへ告知の時
医師 または 同席した看護師から
- B. 入院時、基本情報を聞く時
- C. その都度、患者さんが持っていないと
気づいた時
- D. 患者さんから欲しいと言われた時

○リンクナース委員会説明資料2013.6.3

2016年2月14日「ご家族のためのがん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド」研修会in沖縄2016 9

サポートハンドブックは どのように渡せばよいですか？

- 合言葉は「これ、持っていますか？」
- 本人が必要ないと言えは無理に渡さず、
「必要になったら声をかけてくださいね」と添えてください。
- 「巻末にハガキが挟まっているので、
もっと知りたいことがあれば書いてくださいね」

○リンクナース委員会説明資料2013.6.3

2016年2月14日「ご家族のためのがん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド」研修会in沖縄2016 10

【患者必携】地域の療養情報 「おきなわ がんサポートハンドブック」現状

- これまでの利用者へのアンケート調査では、冊子の有益度や利用後の不安軽減などに一定の効果があるとの結果を得たが、配布が行き渡っていないという指摘があった。

望月祥子、大久保礼子、吉本多佳子、樋口美智子、増田昌人『おきなわがんサポートハンドブック』の改定発行に対する評価の分析』、第16回日本医療マネジメント学会学術総会、2014年6月13・14日

2016年2月14日「ご家族のためのがん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド」研修会in沖縄2016 11

医療従事者が手渡しができない理由

- テーマが重く配布が難しい。
- 告知しているかわからない。
- 配布のタイミングが難しい。
- 患者さんの理解の状態がわからないので指導できない。
- 本人や家族の疾病に対する受容もさまざまなので難しい。
- 外来診療中や入院、診断時などはタイミング的に難しさがある。確実なルートとしては患者さんから求めてこられる事が大切。
- 本人からの申し出がない限り(がん患者や家族と)わからないので、積極的に配布は難しい。

2014年11月7日、第73回公衆衛生学会総会
大久保礼子¹⁾、増田昌人¹⁾、井上重紀²⁾、望月祥子³⁾、樋口美智子⁴⁾
1) 琉球大学医学部附属病院がんセンター、2) ハートライフ病院
3) 那覇市立病院、4) 沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会

2016年2月14日「ご家族のためのがん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド」研修会in沖縄2016 12

【患者必携】地域の療養情報
「おきなわ がんサポートハンドブック」 課題

- ハンドブックを支援者からの手渡しを想定して作成したが、実際には自由配布が多い。
- 医療機関でも、手渡しをすることへの抵抗感がみられた。
患者の反応に対する躊躇や戸惑いに対し、**ハンドブックを使用して情報提供を行う際の説明の方法や配布のデモンストレーション、事例検討などの研修会**を今まで以上に頻回に開催する必要がある。
- また、本ハンドブックは支援者からの手渡しを想定して作成しているが、今後はがん患者やその家族が、**内容についての支援者からの説明がない状態でハンドブックを受け取ることを想定した編集方針**に変更する必要がある。
- 具体的には、**より患者が理解しやすい平易な内容かつ能動的な意思決定や相談窓口へのアクセスを促すことができる、冊子の構成上の工夫**が必須である。次回改訂版制作の際にも患者委員を登用し、より読みやすく受け入れられやすい表現や構成への見直しを行うことが必要である。

2014年11月7日、第73回公衆衛生学会総会
大久保礼子¹⁾、⁴⁾、増田昌人¹⁾、⁴⁾、井上亜紀¹⁾、²⁾、望月祥子²⁾、⁴⁾、樋口美智子³⁾、⁴⁾
1) 琉球大学医学部附属病院がんセンター、2) ハートライフ病院
3) 那覇市立病院、4) 沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会

2016年2月14日「ご家族のためのがん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド」研修会in沖縄2016 13

サポートハンドブックの
補充は、どうすればいいですか？

●お電話で取り寄せができます！

- 沖縄県保健医療部保健医療政策課
電話：098-866-2169



2016年2月14日「ご家族のためのがん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド」研修会in沖縄2016 14

【患者必携】「地域の療養情報」沖縄県版
「おきなわ がんサポート ハンドブック」
～支え合う大切なあなたと家族のために～

「人の命を尊重する
『命(ぬち)どう宝』の精神に基づき
人を大切にすることによって
沖縄に暮らすすべての人々が
人と人が助け合う『ゆいまーる』の心で
がんになっても助け合い
安心して暮らせますように……………」

2015年版【患者必携】「地域の療養情報」沖縄県版
「おきなわ がんサポート ハンドブック」～支え合う大切なあなたと家族のために～

2016年2月14日「ご家族のためのがん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド」研修会in沖縄2016 15